

豊明希望チャペル礼拝

2026/1/11

「祈りの偉大さ」

ルカの福音書 5 : 1~11

今日の箇所は、マルコの福音書、マタイの福音書、そして、このルカの福音書

間違えると失礼!?

召集 招集

に共通する箇所、ペテロらが、イエス様の最初の弟子、使徒として召される場面です。そして、次回になりますが、ペテロに続いて、ヨハネとヤコブも召されることとなります。今、召しと言いました。集まれ！と招集をかけるという時、てへんに、召すと書きますが、てへんのない召すの字は、戦争の時に配られた「召集令状」のような時に使う、上の権

威によって、有無を言わず従うことを意味します。てへんのつく方は、一般的に、たとえば、会社で、会議を招集するなど使うときはてへんです。マルコの福音書のヨハネなどが召されたときのことこうあります。

マルコの福音書「1:19 また少し先に行き、ゼベダイの子ヤコブと、その兄弟ヨハネをご覧になった。彼らは舟の中で網を繕っていた。1:20 イエスはすぐに彼らをお呼びになった。すると彼らは、父ゼベダイを雇い人たちとともに舟に残して、イエスの後について行った。」

この「お呼びになった」が、召すという意味で、ギリシャ語では、「カレオー」と言います。



これは、「教会」ですが、人から教会ってなんですか？と聞かれて、なんと答えるでしょうか。豊明にありますよと、公園の前にありますと答えます。しかし、それは、教会の場所のことです。教会って何だろうとあらためて考えてみると、様々な定義や言い方があります。

ちなみに、教会は、ギリシャ語では、(一般的に)エクレシアと言います。そして、このエクレシアは、ギリシャ語では、エク+カレオーで、召し出された人達カレオーの集まりとなります。すなわち、教会とは、召し出された人達の集まりという意味があるということです。これが、教会を定義づけるときの一つの説明です。

この意味があまりに大事なので、このギリシャ語をそのまま教会名にしてしまう教会もたくさんあります。

船橋エクレシアキリスト教会、登戸エクレシア、エクイレシアキリスト福音教会など・・・

教会を教会と、あえて呼ばないで、「召し会」と

教会とは召し集められた会衆

召会 です



呼ぼうとする人達もいます。教会がこのように自覚することは、どのくらいクリスチャンにとって、大事な事なのでしょう？今日の箇所から、ペテロが召され事を通して、クリスチャンとなること、あるいは、教会員、あえて言えば、豊明希望チャペルの会員となる事はどういうことかということを考え、黙想したいのです。



ある(M)牧師が、私は牧師であるより、クリスチャンであることを誇りたいと言いました。さらには、私は牧師である前にクリスチャンであると言いました。また、ある時には、私は牧師はやめても、もっとも誇り高く、大事なクリスチャンであることを感謝するという言い方をしました。それは、言葉を変えれば、私が、召されたこと、キリストに声をかけていただいたこと、そして、召された者の集まりエクレシアの一員とされたことをこそ感謝したいと言うことであります。



さて、ペテロのことです。

ガリラヤ湖畔に立つ、イエス様とペテロの銅像です。

そして、この像の近くには、ペテロの家と言われる場所があります。

これは、ペテロの家の基礎だと言われる遺跡です。そして、この遺跡の上に、ガラスのペテロ教会が建っています。さて、今日の箇所です。

「5:1 さて、群衆が神のことばを聞こうとしてイエスに押し迫って来たとき、イエスはゲネサレ湖の岸边に立って、5:2 岸边に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。5:3 イエスはそのうちの一つ、シモンの



舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。」

ゲネサレ湖とはガリラヤ湖のことです。シモン・ペテロの家は、そのガリラヤ湖畔にありました。カペナウムと言

われる、その場所で、イエス様は、神のことばを説教しました。

この箇所では、イエス様が、シモン・ペテロの小舟に乗って、岸からガリラヤ湖の中に少し出て、そこから、群衆に教え始められたとルカは報告します。なぜ、舟でガリラヤ湖にこぎ出して、そこから、群衆にお話しをなさったのでしょうか。



ガリラヤ湖の湖畔に向かって、岸辺は傾斜しています。

それは、それは、ちょうど、市民会館などで、舞台に向かって、客席が傾斜しているようにです。上から声を出すより、下って、湖側から声を出した方が、声を通ります。そういう理由だと説明されています。

漁に使う舟を独占してしまいましたから、その日

は、半日は仕事が出来ませんでした。イエス様は、シモンに命じます。今から漁をなさいと。別の箇所にもありますが、夜あるいは、朝暗いうちが、魚がもっともよく捕れるのです。牧師館の近くの琵琶ヶ池も、早朝から釣り人が並び、昼過ぎには、もう人はいなくなってしまう。しかし、イエス様に従うと、大漁でした。

「5:4 話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」5:5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましょう。」5:6 そして、そのとおりにすると、おびたしい数の魚が入り、網が破れそうになった。5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。」

マルコとマタイの福音書では、ここまで詳しくは書いていません。

ルカによれば、このことが、ペテロが、主の召しに応える最大のきっかけとなったと説明しているようです。こうあります。ペテロが召されたきっかけ。あるいは、ペテロがクリスチャンとなった、その経緯です。

「5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」5:9 彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。5:10 シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」5:11 彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った。」

ちなみに、マルコとマタイの報告はほぼ、同じで、こうあります。

マルコの福音書「1:16 イエスはガリラヤ湖のほとりを通り、シモンとシモンの兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。1:17 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」1:18 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。」

たった、これだけです。

ルカは、かなり明確に、このペテロの召しのことに、注目し、注目させたいと願っていることがわかります。

特に注目したいのは、たった、これだけと言いましたが、反対の言い方をすれば、極めて単純明瞭に、またすぐに召しに応えたと、マルコとマタイは、報告しているように見えるのに対して、ルカは、魚が大漁に捕れたという記事を挟んで、はじめて、ペテロが従ったと書いている点です。

強調すれば、あるいは悪い言い方をすれば、ペテロは、それほど素直に従ったわけではないよ、奇蹟を見たから従ったんだよ、奇蹟を見せられなければ、召しに応えなかったかもしれないということです。

さらに言えば、この奇蹟の前に、4章の終わりで見たように、さらに、ペテロの姑の癒やしがあるのです。癒やしの奇蹟を見て、そして、漁師、プロとしての、「捕れない」はずだという人間的な予想、想像を超えたところにおられるイエス様というお方を見て、確信を深めて従った、これも、あえて言えば、それで、やっと召しに応えることが出来たと言っているように見えると言うことです。

そして、さらに言えば、もしルカの福音書しか福音書がなかったら、ペテロについて記事は、この後、イエス様の山上の変貌の時には、ルカによって、彼は自分の言っている事がわかっていない(9:33)と言われ、みなさんも良く知る、大祭司の庭では、イエス様について行って、召使いの女中にあなた見たよと言われて、イエス様を知らないと言い(22:54～)、三度も言う・・・と、むしろ、イエス様の召しに、あまりスッキリとは従えなかった、いや、正確に言えば、従ったが、**再三のイエス様の赦しと招きの中でだけ従い得た**と、そんな書き方になっていると言うことです。

今一度、今日の箇所に戻りますと、多くの聖書学者も注意を促すのですが、ここでルカが報告する、ペテロの召しは何回目だったのかという疑問です。

マルコやマタイは、その詳しい召しについて、その詳細については、省いていると言われます。そうなのかもしれません。また、こういう解釈もあります。マルコ、マタイの召しは、1回目で、ルカが書いているのは2回目だという解釈です。

すなわち、一度は、すんなりとイエス様の召しに応じてイエス様にすぐについていったけれど、その時は、まるで、

仮にそうであっても、ルカは省かなかったと言うことです。

そこに意味があるとでも言っているかのようです。すなわち、たとえばマルコのいうように、「1:17 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」1:18 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。」

すぐに何もかも捨てたけれど、一度は。しかし、やっぱり家に帰ったのであり、結局、漁をしているようだという事です・・・(イエス様が網を下ろせといったから下ろしたのであって、自分たちから積極的に漁をしていない・・・とも言えるが・・・)しかし、どう弁護してみても、少なくとも、姑の癒やしを見ても、その時に、イエス様をメシヤと認め、ひれ伏して、イエス様に従ったのではないということです。ルカの報告に寄れば、漁の大漁を見るまでは、彼は、従いますと言っていないということです。

言い方、あるいは見方を変えると、イエス様はあきらめないで、ペテロにたくさんの奇跡を見せ、また、忍耐深く導かれている、召されているということです。

一度、そして、二度、奇跡を見せられて、やっと素直に信じます、従いますと言った、あるいは言い得たということです。私は、このところで、そう報告してくれていることに個人的に感謝しています。

私は、それを誰に言われたのか、果たして本当にそう言われたことがあるのか、明確に覚えてはいないのですが、私の説教を読み返してみると、20数年前に、こんなことを私は言っています。「私が、牧師になると言ったとき、私の尊敬するキリスト教のリーダーである先生から、あなたは牧師にはあっていないと言われました。・・・(その忠告を聞かず)そのまま雪崩を打って牧師になってしまったのかも知れません。」(2002年3月説教)と。今は、まったくそれが誰であったのかも覚えていません。でも、今、思えば、ペテロを召された主が、ペテロが、あまりスッキリとイエス様に従えなくても、このように忍耐をもって、召され、エルサレム教会の代表になれず、パウロからは、異邦人のことで、また、妻をどこでも引き連れている様子は、言いたいことがあると言われ、それでも、主に用いられたことに励ましを受けるからです。

私たちがクリスチャンとして、召されたこと。カレオーされ、エクレスシアの一員とされ、天国民とされたことを思います。私たちが召されたのは、ただひとえに、私の方の信仰以上に、神の、主の忍耐と、忍耐ある召しによってだということを感謝したいのです。

今週の歩み。主の忍耐と愛によって、召されたことを感謝し、主に信頼し、主に従う歩みをここから、あらためて歩み直したいと願うのです。